

会議録：「令和元年度第 2 回恵那市産業振興会議」

日時：令和元年 12 月 3 日（火曜日） 10：00～11：40

場所：恵那市役所会議棟大会議室

参加者：出席 14 人、欠席 1 人（別紙参照）

1. 開会

○事務局「第 2 回恵那市産業振興会議を開会します。」

2. 会長あいさつ

○森岡会長「本日の会議では、令和元年度に実施されている商業・観光、工業、農業、林業各分野の施策の実施状況と令和 2 年度以降に実施されるべき事業の方向性について報告してもらいます。地域活性化については外からの産業振興の重要性に加え、地域の主体者による内発的な取り組みが色んな場面で議論されています。主体者の有機的な繋がりが重要視されています。それをどう仕組みづくりしていくかが重要です。本会議も有機的な繋がりの場のひとつ。皆様の活発な議論をお願いします。」

3. 市長あいさつ

○小坂市長「令和元年度第 2 回の恵那市産業振興会議にお集まりいただき、ありがとうございます。委員の皆さまには、日ごろから恵那市の産業、観光、農業、林業、それぞれの分野でご活躍いただいています。産業が活性化して、そこで仕事をするのが恵那市の存続に繋がるという強い思いで本会議を立ち上げました。着実に色んな事業が動き始めていることに感謝いたします。2020 年はイベントが目白押しです。イベントを上手く生かして産業の振興から持続へステップアップしていきたいと思っています。大河ドラマはいきなり躓きましたが、放送延期によりドラマ館をどうするかが課題。ドラマ館で明智光秀がスタートし、同時に桜シンポジウムが 3 月終わりにスタート。7 月にはポーランドのカヌーチームが来ます。秋には、ねんりんピックという小規模ですが、全国規模のスポーツイベントがあり、WRC があり、年明けには国体があります。最近メディアで SDGs の話題がよく出てきます。持続可能な社会づくりの中で、いかに上手く産業を活性化していくかがひとつの大きなテーマ。恵那市のような小さな田舎まちは既に SDGs に近い取り組みになってきていますが、もっと広げてブランド化できるところまで持っていくにはどうしたらいいか。6 月 5 日には、小さな取り組みかもしれませんが、恵那市体育連盟で資源回収をする取り組みをスタートしました。市とし

ても、恵南地域の資源回収が上手く行かないこともあり、地域活性化に結び付けようと 11 月 30 日と 12 月 1 日に上矢作と山岡でも資源回収してお金に換える取り組みをスタートしました。ゴミ 1 キロに 56 円の処理費が必要。例えば紙を集めて製紙会社に持っていくとお金に換わります。気づいたことに取り組むだけで、変わって行きます。産業振興を考える上での切り口になると感じます。イベントや SDGs を含めて恵那市をブランド化する、またはプライドが持てるまちにするにはどうしたらいいか。そういったことを考えながら活発な議論をお願いします。」

4. 議事

○事務局「ここからの議事・進行は、森岡会長をお願いします。」

○会長「次第に沿って進行します。(1) 報告事項のビジョンの再確認と令和元年度事業の進捗状況について事務局から説明をお願いします。」

○事務局

- ・参考資料①「恵那市産業振興ビジョンが目指す姿」を説明。
- ・参考資料②「令和元年度恵那市産業振興ビジョンに基づく事業の進捗状況」参考資料③「恵那市産業振興ビジョンに基づく事業の進捗状況（確認）」について各分野担当者が説明。

○会長「ただいま事務局から説明があった本年度の事業の進捗状況について意見はありますか。色んな施策について着実に実施している印象。」

○委員「林業関係でオリジナル木工製品を開発とありますが、材料はどこで調達しますか。ほとんどが枝打ちもしておらず、木が育ちににくい環境。」

○事務局「木工製品のアイデア検討会で考えていく予定。まだ具体的にどの木材かというところまでは考えていません。先日、岩村城の城山の木を使った製品を作った事業者もいました。それも参考に木製品を考えていきたい。」

○委員「例えば椅子や机を作るときの材料にしても節のないものが必要。そういうものの調達先をどう考えていますか。」

○事務局「木工をやっている事業者は、市内に木 Point という木材の流通業者から仕入れています。そこで恵那市産材が使われているかは判断ができません。恵那市産材と分かる木材利用も今後検討していく予定。岩村

城の城山の木材については、岩村の木工業者があえて利用し、おしゃれなまな板を作って売り出したいと考えています。それだけでは十分ではないので、検討していきたい。」

○会長「続いて本日の協議事項に移ります。まず観光ビジョンの原案について事務局から説明をお願いします。」

○事務局

- ・資料①「恵那市観光ビジョン」を説明。

○会長「ただいまの説明について意見はありますか。」

○委員「政策の柱Ⅰ『やってみたくなるスポーツアクティビティの推進』の中に SUP（スタンドアップパドルボード）を入れて大会誘致まで持っていけると、全国的・世界的な大会の可能性はある。笠置峡はボート・カヌーの練習場としては国内屈指ですが、大会となると SUP になる。旅行会社でもツーリズム東美濃協会から話をしています。ぜひ大会の誘致をしてほしい。」

○会長「大河ドラマでは事件でしたが周知するという点では、マイナスをプラスにしていけるといい。中高年には歴史好きが多いので来客は見込める。観光ビジョンは 4 本柱で計画を立てている。SUP の大会誘致という意見もあったので考慮して観光ビジョンの策定を進めてほしい。」

○会長「続いて、令和 2 年度以降に実施すべき事業の方向性についての議論に移りますが、ここから分野ごとに事務局から説明してもらい、委員の意見を聞いていきます。まずは商業・観光分野の説明をお願いします。」

○事務局

- ・資料②「令和 2 年度以降に実施すべき事業の方向性」を説明。
- ・資料③「令和 2 年度以降に実施すべきと検討部会で協議された内容」を説明。
- ・資料④「（一社）ジバスクラム恵那」を説明。

○会長「来年度は地域商社の設立があり、多くの分野に関わっており、目玉になっています。これについて意見はありますか。」

○委員「既設の飲食店などが高齢化でどんどん廃業しています。中津川でも

有名蕎麦屋が今週閉店する。企業には M&A センターがあり、M&A は以前より活発。個人経営の食堂や居酒屋はそのような発想を持ち合わせていない。これをジバスクラムに組み込む。脚で回ってヒアリングし、市内外でやりたい人がいるかもしれない。跡継ぎを探して続けてもらう。急いでやらなければいけない。」

○副会長「今の内容はこれからあちこちで起きてくる。恵那くらしビジネスサポートセンターが関わり、これからの事業計画をどうしようかという事業者の意見を聞いたり、特別な技術があったり、商品やサービスを提供している事業者と接触を持っていくことが必要。資料に『関係機関連絡協議会』がありますが、ここに恵那くらしビジネスサポートセンターを入れていいのでは。林業分野は具体性がない。まな板では林業は復興できない。話題性は出るかもしれない。山林経営にもっと深く掘り込んでいかないといけない。木を切り出そうにも需要がない、道がない、道具がない、人手がないという状況でも、観光と結び付けられるかもしれない。山歩きや植物観察コースを作るなど色んなことができる。」

○委員「インバウンドで賑わう大阪の黒門市場を視察してきました。9 割が外国人。元々はミナミの料亭などに食材を提供するために作られた市場でしたが、スーパーが出来てインバウンド向けに方向転換した。1 日 3 万人のお客さんが来る。何年か前は『爆買い』でしたが、今は『爆食』だそうです。東南アジアでは食べられない生の食材を提供。関西空港から直接来る。外国人はわざわざ日本でしか食べられない『食』を求めて来る。特にフグは東南アジアでは危険で食べられない。『爆食』でインバウンド客が来るのであれば、『食』のプロジェクトも産業振興ビジョンの中で検討されるといい。Wi-Fi 整備はもちろん、インバウンド客は子供もスマートフォンを持っているので、調べると商店街のお店が出てくるよう情報提供整備もインバウンド対策に入れてもらいたい。」

○委員「先ほど、まな板の話がありましたが、木材をもっと大々的に使う必要がある。これからは木造の時代。住友林業が 350 メートルの高層ビルを建てる。企業にとっては減価償却面で木造は多大なメリットがある。スーパーやオフィスも木造の時代だという PR をするといい。」

○委員「商店街の活性化というテーマがあるが、11 月 13 日に新しい商業施設が出来た。半月経過しましたが、19 号が危険で渡って行けない消費者が多数いる。商店街の若い経営者がまちづくりのアイデアを出してくれるのもありがたいですが、大型ショッピングセンターに行けない消費者

のための商店街というものを明確に打ち出せないかと考えています。恵那市全体の高齢化率が 34%ほどになる中、大型商業施設へのバスも通っていない。『高齢者が安心して買い物できる商店街』という視点を商店街の活性化に入れて考えてもらいたい。」

○会長「事業承継については、商工会議所や商工会の経営発達支援事業での個別調査を生かせるといい。小規模事業者や中小企業に M&A を紹介する国の制度があるので連携できる。商業事業者をリストアップし、市民の中からやりたい人が出てくるような仕組みづくりを検討してもらいたい。先日、大阪に行った際、道頓堀は外国人で溢れていました。売り方とやり方次第。東南アジアでは屋台文化が根付いています。どのように売り方を変えていくかを地域商社で観光の一環として考えてもらいたい。」

○委員「高山も外国人が増え、古い町並みも変わってきている。昔は漬け物や地元のものが並んでいましたが、変わっていかなければいけないということで議論し、『洋』のものが入ってきました。若い人たちが入っていくために拠点となるラーメン屋が話題を作っていくなど新しい変化が生まれてきています。課題は居住空間と店舗が一体化している物件を貸せないケース。恵那の商店街でも居住空間と一体構造となっている物件を開放できるかが課題。また外から入れられるか。昔は地元の既得権だったものを外から受け入れるという意識の改革が起きている。また恵那に来たら何を食べてもらうか。五平餅以外に何が食べられるかの情報提供ができるといい。」

○会長「続いて、工業部門の説明を事務局からお願いします。」

○事務局

- ・資料②「令和 2 年度以降に実施すべき事業の方向性」を説明。
- ・資料③「令和 2 年度以降に実施すべきと検討部会で協議された内容」を説明。

○会長「働き方の議論がありました。IoT、AI、ビッグデータは 3 本柱で初めて機能します。家電製品の IoT ではなく工場設備の中の IoT。製品開発にも IoT が使われている。機器も情報も安くなり、早さが競われています。3 本柱の方向性を考えてもらいたい。製品開発では地域商社が重要な役割を持つ。地域プラットフォームの考え方は 20 年ほど前からありましたが、一方向の考え方でした。参加者同士を結びつけて製品開発し、外へ売っていく点で非常に重要な機能。ものづくりにも地域商社を生か

していけるといい。国も推進しています。地域のプラットフォーマーを中心としてエコシステムを形成していくための中核的役割を担う。」

○委員「中学や高校での企業説明会を進めるとありましたが、高校を卒業して就職する学生は少ない。大学へ進学するが、この地方に大学はない。高校生を留めておこうとするなら専門学校や大学を誘致した方が早い。少しでも残ってもらい地元で就職してもらおう。」

○会長「恵那市の職員が中部大学に来たのでキャリアセンターに連れて行き、大学での企業説明会ができないか提案しました。そのような活動も活発化してもらいたい。」

○委員「テクノパークでは 1,600 人の従業員の内、2 割程度が外国人。企業は AI の方向へ進んでいます。人に頼っていた検査などを AI でやっています。AI の普及により人手が余ることも考えられるので、それも同時に考えていく必要がある。」

○会長「続いて、農業分野の説明を事務局からお願いします。」

○事務局

- ・資料②「令和 2 年度以降に実施すべき事業の方向性」を説明。
- ・資料③「令和 2 年度以降に実施すべきと検討部会で協議された内容」を説明。

○会長「ただいま事務局から説明があった内容について意見はありますか。」

○会長「最後に林業分野の説明を事務局からお願いします。」

○委員「林野庁も山林の再造林を進めている。岐阜県も 100 年の森づくりを推進していますが、ビジョンが描けていない状況。最近では、もっと成長の早い樹木を植栽して 30 年ほどで伐採してお金にしている。またボイラーの燃料となるチップの需要が高まっているので、市有林で成長の早い樹木を植えて利用していく施策も必要ではないかと考えます。」

○会長「ただいま事務局から説明があった内容について意見はありますか。」

○委員「担い手は作業員ではなく経営者。経営者が林業の現状と課題、将来をどう考えているかということから掘り下げる必要がある。」

○委員「伐採できる木が何年後にどれくらいあるか把握していますか。静岡

では、100 年植林と伐採をする計画があり、毎年どれくらいの木を切って、どれくらい植林するか決めている。どれくらいのお金が入るかも分かる。恵那でも伐採する量が把握できれば、それに対する需要を見つけてくることも目処が立ってくる。工業や観光でどう使うかなども考えられるようになる。トータルで財産をどれだけ持っているかが分かるという。」

○会長「ビジネスが成り立つかのグランドデザインを描いて検討してもらいたい。安い輸入材に流れてしまうのをどうしたら地元の木材を使ってもらせるようになるかを考える。」

○委員「先日、NHK で漆が日本でなくなっていると紹介していました。木を植えて 15 年で漆の液が出るようになる。6 年ほどで漆を取れる技術が開発されるともっと建築に利用できる。日本から消えようとしている漆などの資源を恵那の特徴に出来ないか。」

○会長「桐は草。一枚板ではなく何枚も組み合わせている。技術の高い伝統工芸です。今後はそのような方向性も出てくるかもしれない。」

○会長「では、最後に今後調整すべき内容について意見はありますか。」

○委員「オリンピック後、ポイント制度が導入されますが、どのような仕組みかなど知識がない。勉強する機会がほしい。」

○会長「さまざまな分野について多くの意見をいただきました。引き続き検討部会で具体的な議論をいただき、産業がさらに活性化する事業が生まれてくることを期待します。以上で全ての議事が終了したので、事務局へ返します。」

6. 今後のスケジュール

○事務局「本日、来年度以降の事業の方向性について確認いただいたので、来年度すぐに実施すべきものは予算化し、実施していきます。まだ事業化にならないものは各部会で引き続き協議していきます。また、観光ビジョンの策定や事業の進捗状況により、随時本会議を開催していくので、理解と協力をお願いします。」

7. 閉会

○事務局「今回の会議はこれで閉会とします。」